

農作物技術情報 第5号 花き

発行日 平成30年 7月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 病害虫防除を徹底しましょう。
- ◆ 来年に向けた収穫後管理を適期に行いましょう。
- ◆ 高温乾燥が続く場合は灌水を励行しましょう。

りんどう

1 生育概況

- ・ 露地りんどうは、ほぼ平年並の生育状況となっています。
- ・ 病害虫の発生について、害虫はハダニ類が増加傾向にあるほかリンドウホソハマキが散見されます。病害は一部地域で葉枯病が散見されますが、全般に例年より少発傾向にあります。
- ・ 高温の影響により、県央・県南地域を中心に花卉の高温障害（ハチマキ花）が発生しています。

2 栽培管理

(1) 灌水

当面猛暑が続く予測であるため、特に圃場の乾燥には注意します。灌水は通路灌水を基本としますが、高温時に長時間通路に滞水すると熱水によって株にダメージを与える可能性がありますので、灌水後の土壌浸透時間を考慮して開始時間を決めます。

(2) ネット管理

茎の曲がりが生じないように、随時フラワーネットの位置を調整します。また、今後の台風に備え、ネットと支柱を点検・補強します。

(3) 追肥（礼肥）

中生品種までは、収穫後に速効性肥料で窒素、カリ各成分量で3～5kg/10aを施用します。

(4) 残花処理

収穫後の残花は、アブラムシ類やアザミウマ類等の害虫や花腐菌核病の増殖・感染源となります。そのため、花蕾の着いている部分の茎の折り取り（花茎除去）が有効です。その際、残さは圃場内に放置せず圃場外で処分します。

3 収穫・調製

(1) 出荷規格の確認

今年度、県出荷規格の等階級表示が変更となっていますので、各地域の出荷目揃会等で内容を確認してください。

(2) 鮮度保持

収穫後は日陰で速やかに水揚げを行います。水揚げ容器は、内側にぬめりがないようこまめに

洗浄します。また、水揚げに用いる水は飲用可能なものとし毎回交換します。

4 病虫害防除

(1) 害虫

梅雨明け以降ハダニ類の増加が懸念されます。圃場をよく観察し、発生初期の防除を心がけます。下葉の黄化や葉裏に多数の白色微小斑点や褐色のカスリ状模様がある場合は、ハダニ類の食害による可能性があります。自己確認が困難な場合は普及センター等指導機関に相談してください。また、薬剤はハダニ類に薬液が付着しなければ効果が得られませんので、葉裏にもしっかり薬液がかかるよう、動噴の圧力を高めにして丁寧に散布します。



写真1 葉裏に寄生するナミハダニ



写真2 ハダニ類に吸汁された箇所は葉の表から見ると黄化している

(2) 病気

今後、最も注意が必要な病気は花腐菌核病です。例年、夏の暑さを経過して気温が涼しくなり始める8月中旬頃より発生が始まります。したがって、冷夏の年は発生が早まり、猛暑の年は遅くなる傾向となります。県の防除情報を参考とし、適期に有効薬剤を散布します。また、この病気は一次感染が着色期以降の花蕾であるため、上述したように収穫後圃場の花茎除去が有効な対策となります。

小ぎく

1 生育概況

- ・ 8月咲品種は定植の遅れに伴い当初は生育が遅れていましたが、その後回復してほぼ平年並みの生育状況となっています。
- ・ 9月咲品種は順調に生育しており、平年並から平年よりもやや早い生育状況となっています。
- ・ 病虫害について、害虫はアブラムシ類、アザミウマ類が増加傾向にあるほか、一部地域でハダニ類、ヨトウガ類の発生がみられます。病気は全般に少なめで、例年問題となる白さび病も本年は今のところ少発傾向となっています。

2 栽培管理

(1) 灌水・排水対策

当面乾燥が続く可能性が高いので、萎れる前に灌水をします。ただし、高温時の滞水に著しく弱く、根腐れを起こして枯れ上がりやすいので高温時の灌水は避けます。一方で湿害にも弱いため、大雨後は排水対策が重要です。圃場内が冠水した場合は、溝切り等によって速やかに排水を

促します。

(2) ネット管理

りんどうと同様、茎の曲がりが生じないように、随時フラワーネットの位置を調整します。また、今後の台風に備え、ネットと支柱を点検・補強します。

(3) 伏せ込み用親株選抜

株の状態の判断は収穫後では難しくなるため、必ず収穫前に選抜します。開花期が目的とする時期に合っていること、草丈がよく伸び本来の品種特性を備えて揃っていること、葉の枯れ上がりが少ないこと、病虫害（特にウイルス、ウイロイド、土壌伝染性病害）のないことを確認して優良な株を選抜し、目印を付けておきます。

(4) 収穫後管理

伏せ込みに利用する株については、収穫後に地上部が伸びすぎないように地際5～10cmのところまで刈りをします。その後、速効性の化成肥料を窒素成分量で3kg/10a程度施用します。マルチ栽培では、生育を促すために刈り後にマルチを除去して土寄せするのが基本ですが、除草労力を考慮して決めます。なお、かき芽で伏せ込む場合は、刈り後に発生した側枝に土寄せをして側枝の発根を促します。

3 収穫・調製

(1) 出荷規格の確認

今年度、県出荷規格の等階級表示と旧2L規格の長さを変更となっていますので、各地域の出荷目揃会等で内容を確認してください。

(2) 鮮度保持

りんどうと同様に、収穫後は日陰で速やかに水揚げを行います。水揚げ容器は、内側にぬめりが少ないようこまめに洗浄します。また、水揚げに用いる水は飲用可能なものとし毎回交換します。

4 病虫害防除

(1) 害虫

例年、8月に入るとオオタバコガの発生が増加します。今後、普及センターの防除情報に注意し、発生初期に有効薬剤を散布します。

(2) 病気

一般に白さび病は暑い時期は一時的に症状が見られなくなりますが、9月の秋雨時期に再び増加する傾向があります。症状の有無や収穫の前後にかかわらず、定期的な防除を継続することが重要です。



写真3 オオタバコガによる蕾の食害

次号は8月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。